

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

No. 625 2019年 11月号
 1部60円
友の会会員は会費に含まれています
 発行 東京勤労者医療会代々木病院
 院長 河邊 博正
 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7
 TEL 03(3404)7661
 http://www.tokyo-kinikai.com/yoyogi

国の責任で、いのちと人権が大切にされる社会保障の拡充を

憲法・いのち・社会保障

まもる国民集会

10月17日、日比谷野外音楽堂で医療・介護関係者による「憲法・いのち・社会保障まもる10・17国民集会」が17日、東京・日比谷野外音楽堂で開かれました。全国各地から2500人超、代々木病院や代々木健康友の会をはじめ勤医会は職員、共同組織総勢で約70人が参加しました。

開会にあたり医労連の森田委員長が、「社会保障を解体し、際限のない給付削減と負担増の押し付けや9条改憲」を進める安倍政権を批判し、「憲法守り生かせの」と呼びかけました。

続いてメインゲストの室井佑月さんに看護師がインタビュするという形のトークショーがありました。聞き手の看護師

が「看護や介護の現場は人手が足りない」と言う「国がお金を出せばいい人材が集まる」と、憲法、政治に対する思いについて、「権力を私物化する安倍政権に改憲をやらせてはならない」と話されました。最後に「あきらめないことが大事。正しいのはこっち」と医療・介護で働く仲間へエールを贈りました。国会議員の挨拶や、日

本医師会、歯科医師会からの激励メッセージの紹介の後に医療・福祉関係者のよるリレートークが行われ、それぞれ現場の実情と社会保障の充実を求めました。

台風被害があった長野の介護現場からは「ある介護施設では浸水し、簡易タンクをつくって利用者避難させた。救助が来ると看護師さんが泣き崩れた」「ももとの配置基準が少ないので、有事の際は少ない人材で利用者を守らなくてはならない」と指摘し、また介護のやりがいと価値を求めて「処遇改善」と「増員」を訴えました。

医療現場からは東京民医連の立川相互病院の看護師が、国保問題について発言し、保険料の滞納や重い窓口負担が病院への受診を遠ざけ、手遅れ死亡につながっている実情を訴えました。

集会最後は集会アピールが読み上げられ、厚労省と首相官邸に向かって「いのちまもる」と書かれたプラカードを掲げました。集会終了後は銀座パレードが行われ、雨の中で「医師・看護師・介護職を増やせ」、「地域医療を守れ」、「軍事費減らして社会保障に回せ」などのコールをしながら有楽町、数寄屋橋、銀座の沿道を道行く方々へアピールしました。



代々木病院の職員の参加者「いのちまもる」をアピール



「安全安心の医療介護の実現を」訴え銀座をパレードしました



介護職場から介護のやりがいを求め「処遇改善」と「増員」を訴えました



高すぎる国民健康保険料の改善を求め、「国民皆保険制度を守れ」と訴えました



メインゲストの室井佑月さん

署名のお願い
 病院では、「社会保障制度の拡充を求める請願署名」を集めています。本館2階の受け付け前の署名コーナーに用紙があります。来院の際はご署名をお願いします。

千駄の萱

11月3日の「文化の日」は、1946年に日本国憲法が公布された日だ。48年に制定された

祝日法第2条で、憲法の公布日にちなみ、「自由と平和を愛し、文化をすすめる」日と定めたところが、この「文化の日」を「明治天皇誕生日」を祝った戦前の「明治節」にならない、「明治の日」に変えようという不穏な動きがある▼祝日法改正を目指す「明治の日推進協議会」は「明治時代を振り返ることを通じて国民としてなすべきことを考える契機にした方がよい」と主張する。10月末に国会内で集会を開き、「明治の日創設賛同署名」が100万人に達したとして、自民党有志議員による「明治の日を実現するための議員連盟」へ渡し、祝日法改正を促し、これを受けた「議連」は維新の会など他党協力のもと超党派議連へ拡大、来年通常国会で改正案提出を目指す、との報道だ▼戦前の「明治節」は、学校で子どもたちに天皇絶対の大日本帝国憲法を守れと徹底する日であった。「明治節」の復活は、日本国憲法の国民主権・平和主義・基本的人権の尊重の三原則を踏みにじる憲法破壊だ (の)